

生活共有空間住居

—都市単身者住居における新たなオルタナティブの提案—

序論

1 研究の背景と目的

1・1 研究の背景と目的

近年、家族形態は大きく変化し、単身世帯の増加が著しい。都市にあふれる単身者の生活は今、多くがワンルームマンションなど単身者向けアパートの一室に置かれ、無機質に並ぶ狭い個室の中で完結した生活が「見えない単身者像」を作り上げていると言える。しかし、都市における単身世帯のための住宅は、多様化する単身者の生活を支え、他者や社会とのつながりを育む一つの居住スタイルとして提案される必要があると考える。

そこで本研究では、《生活共有空間》の存在に注目する。「個」として孤立していく単身者の暮らしを再考するため、社会的背景と単身者住居の供給と需要を把握した上で多様な生活共有空間の在り方を分析し、新しい生活共有の仕方をこれからの単身者居住に取り込む提案を行う。本研究は、これからの単身者住居の在り方と生活共有空間の可能性を探り、1つの個室では完結しない、1人の生活が居住者の数だけ重なっていきけるような、画一的な一般的ワンルームマンションに代わる単身者住居のオルタナティブを作ること

を目的としている。

1・2 論文の構成

本論文の序論となる 1、2 ではこれまで供給されてきた単身者住居について概観し、単身者の住まいに求められているものを探る。本論となる 3 では、生活共有空間となり得る共用部を持った多様な住居形態の事例を 16 挙げ、生活共有空間と個室の機能的、空間的関係性について比較、分析を行う。類型化した生活共有空間から個室との新しい関係の可能性を導き出し、提案の方針を立てる。4 では、考察したコンセプトを元に、新しい生活共有空間を持った単身者住居を提案し具現化する。

1・3 用語の定義

本研究において、居住者が共同で使用することのできるように計画された空間を《共用部》、居住者同士が行為を共有しながら生活を営む空間を《生活共有空間》と定義する。計画された共用部の中でも、生活の関わり合いが意識されるものを生活共有空間と位置付け、区別する。

fig.01_ 個室機能分類

個室完結型 個室内に機能が多く備わり生活が完結している	
A 完結 個室内に完全に機能が揃っている	B 一部依存 ランドリーだけ共有している
共用部依存型 個室に備わる機能が少なく、共用部で補っている	
C 半依存 個室機能の幾つかが欠けている	D 完全依存 個室に機能を全く持たない

2 単身者住居の系譜

2・1 単身者住居の動向

単身者の賃貸住居は、関東大震災、戦争、戦後の高度経済成長、バブル崩壊、IT 情報社会などあらゆる時代背景に呼応し、あらゆる形態のものが登場した。近年では単身者を「個」として確立させる考えが広まり、個室化の流れからワンルームマンションが普及して、単身者の一般的な住居選択となった。その供給数は都心部において安定して伸びているが、ワンルームマンション入居者の生活態度や、地域の一員としての意識の欠如が問題視されたことで、ワンルームマンションの建築を規制する動きが強まっている。

2・2 現代の単身者住居

単身者の増加、単身者のライフスタイルの変容や多様化に伴い、世間でも単身者住居に注目が集まり、空間の自由度の高いデザイナーズマンションや人との関わりが強いコレクティブハウス、シェア住宅など、多くの新しい単身者住居が提案されるようになった。

単身者住居の系譜を追っていくと、居住者自らが己の住まい方を模索する、居住者へ委ねられる住まいの提案を近年の傾向として抽出することができる。単身者は今、自分のライフスタイルに合わせてその時どきで選び取っていくことのできる、バリエーションを内包した単身者住居を必要としているのではないだろうか。居住者同士の生活の中間領域となる生活共有空間は、バリエーションを持った複雑な空間構成によって、単身者に必要とされる多様な人とのつながりを作る可能性を持つと考える。

本論

3 生活共有空間の可能性

3・1 単身者住居の分類

1) 個室機能分類

玄関、トイレ、バス、キッチン、ランドリー、と主要な 5 つの機能を挙げ、これらの有無によって個室完結型と共用部依存型に分け、更に 4 段階に分類。(fig.01)

2) 共用部機能分類

共用部に備わっている機能についても 5 つの機能の有無によって、個室主体か共用部重視かで分類。(fig.02)

fig.02_ 共用部機能分類

個室主体型 共用部の機能が 2 つ以下のもの	
a 不備 動線以外の共用部がない	b 付加 共用部機能により生活を補うことができる
共用部依存型 個室に備わる機能が少なく、共用部で補っている	
c 充実 積極的に共用部機能が備えられている	d 完備 全ての機能が共用部に備わっている

3・2 対象事例の選定と分類

前項において、機能量はその住宅の性質を一概に決めるわけではなく、個室と共用部の関係性が重要となる。そこで、多種多様な個室の質、共用部の質を取り上げ、一般的なワンルームマンションと比較するように、生活共有空間となり得る特徴的な共用部を持っている単身者住居 16 事例を対象として分析、考察を行うこととする。(fig.03)

対象事例を個室機能、共用部機能によって分類し、マトリックス表を作成してその関係性を推考する。(fig.04)

3・3 生活共有空間の分析

各事例について、個室と共用部の機能の有無、空間構成を示し、個室と共用部の関係性についての考察や、空間構成とその効果についての考察を行うと共に、空間的特徴をキーワードとして抽出し、分析や提案の手がかりとした。

抽出したキーワード

ふくらみ動線空間、オープンCOMMON、分散構成、選択性、プラスα、動線と共用部の重なり、コミュニケーションのきっかけ、共有動線ににじみ出し、生活動線上の共用部、施設の充実—コミュニティ重視、ソフトのつながり、機能性の補充、関係性のバリエーション、ユニットの形成、ゆとり空間、空間的選択性、立体的つながり

分析、考察結果から事例を生活共有空間の在り方で分類するために、次のような分類を設定する。

- I 非共有型：生活を共有できる空間が備わっていない。
- II 空間共有型：空間を共有することによる利点があり、共同生活が第一の目的ではない。
- III 空間共有—共同選択型：自在な空間設定により、空間共有か共同か選択して生活できる。
- IV 共同型：共同することが前提としてあり、意識を持って生活する必要がある。

個室と共用部の機能関係をキーワードによる特徴づけと合わせて概観することで、事例の中で生活共有空間の在り方がどのようになっているか分かる。

3・4 求められる単身者住居の生活共有空間とは

分析、考察から、単身者住居としての豊かさを兼ね備え、居住者が選択性やバリエーションを持って生活を自ら作り出していく住まい方が有用であると考え、空間共有—共同選択型に注目する。対象事例について単身者住宅の分類と生活共有空間の分類を対応させると、空間共有—共同選択型は様々な機能量に対応し、空間構成やコンセプトに特徴のある事例が多く、提案的な試みがなされている。(fig.05)

通常、一つの事例において個室の機能、共用部の機能は決まっており、居住者は同一の生活環境を持つ。空間共有—共同選択型を元に、固定された住まい方に変化をつけ、固定されない生活を提案することで、彩りのある住まいの重なりを実現できると考えた。

生活共有空間はそのプログラムや空間構成によって、様々な生活に対応し得る可能性を持っている。個室と生活共有空間の多様な関係性が多彩な住まい方を可能にすると考え、一つの個室では完結しないような住まい方の提案を行う。

fig.03_ 対象事例 (竣工年順)

竣工年	名称	掲載媒体	戸(室)数	住宅形態
1991	再春館製菓女子寮	新建築 1991. 10	20	単身寮
1992	高島平の集合住宅	新建築 1992. 5	14	共同住宅、店舗
1994	コレテ松波	新建築住宅特集 1994. 8	22	共同住宅
1998	YKK 黒部寮	新建築 1998. 11	100	単身寮
1999	風の村	建築設計資料 103 ユニットケア	57	共同住宅(シルバー)
2002	真鶴共生舎 木の家	新建築 2003. 4	10	共同住宅(シルバー)
2002	松陰 commons	新建築住宅特集 2003. 10	7	シェア型賃貸住宅
2003	久が原のゲストハウス	新建築 2004. 4	10	共同住宅
2003	かんかん森	新建築住宅特集 2003. 10	28	共同住宅 (コレクティブ)
2005	森山部	新建築 2006. 2	6	共同住宅
2007	グラントウルース弥生		32	共同住宅
2008	マージュ西国分寺	新建築 2009. 2	9	共同住宅、店舗等
2009	ヨコハマアパートメント	新建築 2010. 2	4	共同住宅
2009	シェアプレイス東神奈川	ひつじ不動産	57	シェア型賃貸住宅
2009	下北沢 pinos	ひつじ不動産	9	シェア型賃貸住宅
2009	都心型・高層シェアハウス		41	シェア型賃貸住宅

fig.04_ 対象事例 個室—共用部機能分類

個室機能		個室完結型		共用部依存型	
		A 完結	B 一部依存	C 半依存	D 完全依存
個室主体	a 不備型	グラントウルース弥生 森山部	個室完結—個室主体 個室での生活が尊重され、 共用部の付加に生活共有の可能性あり	共用部依存—個室主体 適度な距離感と支え合いが 生まれると考えられる	
	b 付加型	ヨコハマアパートメント	コレテ松波	久が原のゲストハウス	
共用部重視	c 充実型	マージュ西国分寺 かんかん森	個室完結—共用部重視 個室が共用部が選択性が強く コミュニティが意識される	高島平の集合住宅 共用部依存—共用部重視 生活が共同化され共用部が 中心的存在を占めている	
	d 完備型	真鶴共生舎木の森	YKK 黒部寮 シェアプレイス東神奈川	下北沢 pinos 松陰 commons 都心型高層シェアハウス 再春館製菓女子寮 風の村	

fig.05_ 個室機能—生活共有空間類型

個室機能		個室完結型		共用部依存型	
		A 完結	B 一部補完	C 半依存	D 完全依存
生活共有空間類型	I 非共有型	グラントウルース弥生			
	II 空間共有型	森山部		高島平の集合住宅 YKK 黒部寮	
III 空間共有—共同選択型	ヨコハマアパートメント	コレテ松波 マージュ西国分寺	久が原のゲストハウス	都心型高層シェアハウス 再春館製菓女子寮	
IV 共同型		かんかん森 真鶴共生舎木の森	シェアプレイス東神奈川	下北沢 pinos 松陰 commons 風の村	

設計提案

4 新しい単身者住居の提案

4・1 新しい生活共有の仕方

1つの集住体の中には、居住者の数だけ生活があり、それぞれの住まい方を実現し得る提案を行う。まず個室に収められている機能や行為を分解し、再構築していく。(fig.06)

提案する単身者住居は居住者の専有する2つの個室と全体で共有する大きな動線空間によって構成される。その動線空間はバリエーションを持った生活共有空間となる。(fig.07) 建物には、個室と個室から分解された機能や空間が散在し、立体的且つ変化がある伸縮自在な動線空間によってつながれる。

自在な生活共有空間で構成されていることにより、居住者は自分の生活スタイルに合わせて、個室の持つ機能、使用する共用部、自分の居場所を選択し、自らの生活を作っていくことができる。

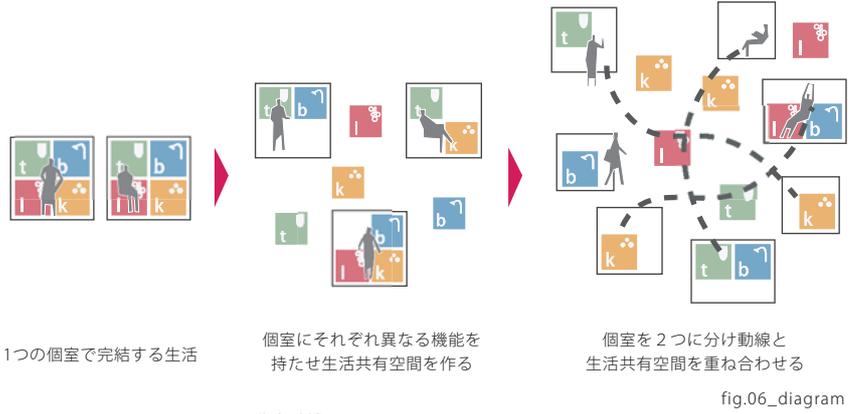


fig.06_diagram

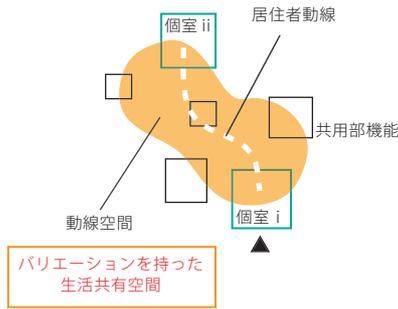


fig.07_空間 diagram



fig.08_豊島区雑司ヶ谷

容積率 300%
建ぺい率 60%
第1種中高層地域 敷地面積 300㎡

4・2 敷地の選定

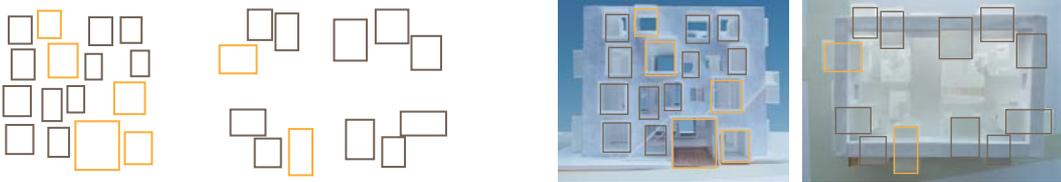
本研究では、単身者住居のオルタナティブを提案することを目的としているので、提案は敷地に大きく影響されない汎用的なプランとする。都市部で単身世帯が多く、ワンルームマンションが多く建設されている場所から敷地を選定する。

■豊島区雑司ヶ谷3丁目

豊島区では、全世帯のうちの単身世帯数や、30㎡に満たない集合住宅の占める割合がいずれも東京23区で最も高く、狭小住戸集合住宅の課税を行っている。

生活共有空間住居 新しい生活共有空間を持った20戸の単身者住居

frame 個室となる箱を規則性を持たせずに配置し、いくつかを共用部として設定。箱は厚みのある壁に突き刺さり、生活が立体的に構成される。

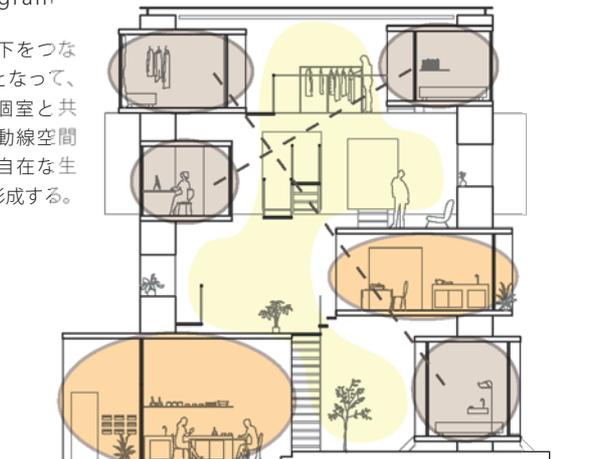


concept model



section diagram

壁の内部は上下をつなぐ大きな空間となっており、個室と個室、個室と共用部をつなぐ動線空間が変化のある自在な生活共有空間を形成する。



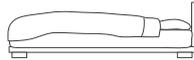
Variations on Single Life

様々な個室と様々な共用部がひとつながりの動線空間によってつながり、単身者のそれぞれの生活を実現し、自然に重ね合わせていく。



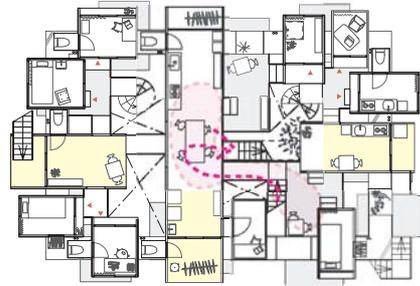
CASE1 | T関係事業者
自宅で作業をする30代男性

SOHOの形式をとり、1階は打ち合わせもできる仕事だけの空間
もう1つの個室はシャワーを備え、自分のベースで生活できる



くつろぐ個室

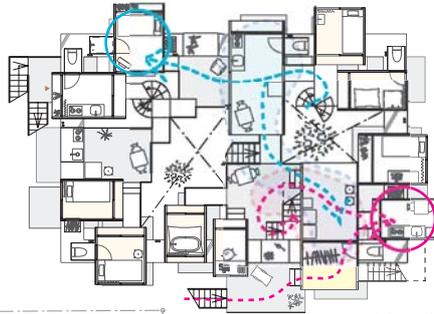
仕事をする個室



3rd level



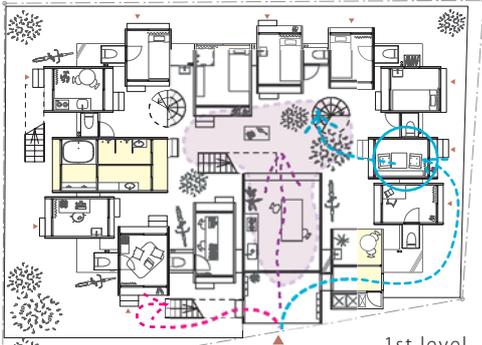
2つめの個室への動線は多様な質を持ち決まった関係性を持たない



それぞれの動線は機能を求めて重なる



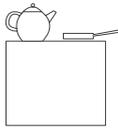
くつろぎ作業をする個室



1st level

外部階段へ向かう動線

2nd level



料理をする個室

自分のキッチンを持つが浴室は共用部に依存している
動線となる生活共有空間の中に自分の居場所を見つける

エントランスからひとつながりの生活共有空間へ引き込まれていく

CASE2 女子大生

近くの女子大に通う20代学生

